

連携医院のご紹介

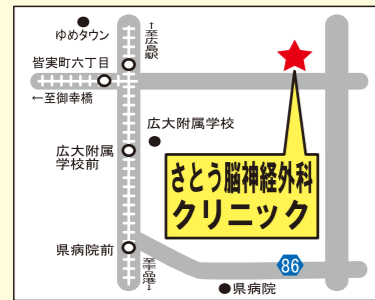
今回は「患者さんのことを第一に」という思いを大切にされている「さとう脳神経外科クリニック」の佐藤秀樹先生です。



佐藤秀樹先生

さとう脳神経外科クリニック

〒734-0005
広島市南区翠2丁目5-6
電話 / 082-254-3211
FAX / 082-254-3212
院長 / 佐藤 秀樹
診療科目 / 脳神経外科・
リハビリテーション科



○いつ開業されましたか。

平成21年6月に開業しました。学生時代を過ごし、そして医師になってからも長く勤務した県病院の近くに開業しました。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

患者さんの話をよく聞くことです。話を聞いているとその人の生き方がわかるので、診療にとっても役立ちます。傾聴することは治療の一部だと思っているので、聞くことを大切にしています。

○開業医のおもしろさは何ですか。

責任は伴いますが、自分の裁量で診療ができるところがやりがいです。勤務医時代は手術が中心でしたので、外来診察では手術に至らない患者さんとは、なかなかお話できませんでした。今はしっかりお話ができるのがいいですね。

勤務医時代に遠方からヘリコプターで運ばれてきた患者さんが、開業後に歩いて受診に来られ「あの時はありがとう」と言われた時は大変嬉しかったです。

○県病院とはどんなところですか。

私のバックボーンになっているのは、県病院時代の脳外科医としての考え方です。救急は断らないという使命感です。今でも救急隊からの電話はできるだけお受けして、困っておられる方や救急隊からの要請にできるだけこたえてトリアージを行い、県病院への橋渡しができるようにしたいです。

○脳心臓血管センター(H26.4開設)について

脳心臓血管センターは人材(脳神経内科、脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科の医師が集まっている)がそろっていて頼もしいです。紹介後の経過レポートもよくわかります。さとう脳神経外科外観



【取材後記】

お会いすると常に笑顔でやさしく穏やかな印象の先生ですが、脳外科医としての救急医療に対しては熱い思いをお持ちの先生でした。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

院長就任のご挨拶



院長
木矢 克造

4月から県立広島病院の院長を桑原正雄先生から木矢克造が引き継ぐことになりました。よろしくお申し上げます。

私は平成5年から今日まで県立広島病院の脳神経外科医として脳腫瘍や脳動脈瘤などの診療に携わってまいりました。その間、担当した患者さんが術後に元気になれる姿をみては安堵する日々でした。平成21年からは副院長兼務となり、平成26年には高齢社会に対応するため脳心臓血管センターを立ち上げました。

当院は明治10年広島市水主町に公立広島病院として開設され、戦前までは広島県立の基幹病院として診療や医育に力を注がれていました。昭和20年8月6日の被爆により病院は崩壊しましたが、奇跡的に生存された満身創痍の院長や看護婦さんにより救護活動が献身的になされました。その後、昭和23年から現在の宇品の地にて県立広島病院として再発足し、今日に至っています。

近年の自治体病院を取り巻く環境は厳しさを増しており、平成19年には「公立病院改革ガイドライン」が示され、自治体病院も公共性と同時に経済性も求められる時代となりました。それに伴い、当院は平成21年から地方公営企業法の一部適用から全部適用になり、初代病院事業管理者には大濱紘三先生が就任されました。今年4月からは広島大学の学長をしておられた浅原利正先生が2代目として新たに着任され、病院の新たな一歩を踏み出します。当院は許可病床数712床の基幹病院であり、救急医療、成育医療、がん医療、災害医療、地域支援医療などの政策医療を提供しています。

また当院は基幹災害拠点病院であり、重要な役割を担っています。救命救急センターでは、ドクターヘリ搬送など広域的な重症救急の応需、死に直結しかねない脳卒中や心疾患に対する24時間対応も行っています。成育医療では今年度からNICUを増床し低体重出生児の受入れを強化します。がん医療では新たに腫瘍センターを設置して、「人にやさしいがん医療」のもと集学的治療を提供していきます。脳心臓血管センターでは、動脈硬化による多血管病などの複合病変に対して、脳・心臓・末梢血管が専門の内科・外科医が集まりバスキュラーボードと称した症例検討を行っています。また広島県は若手医師不足も問題視されていますが、臨床研修指定病院として人材育成にも熱心に取り組んでいるところです。

国の医療・介護一体改革が進められる中で、徐々に地域医療構想が具体化しつつあります。地域医療が継続的に提供できるように、医療者全体で地域医療を守りながら、住民の方々が安心して暮らせる医療を目指します。

前院長退任のご挨拶

昭和54年に赴任以来、呼吸器内科、総合診療科、地域連携科、感染対策、クリニカルパスなどで長い間大変お世話になりました。特に、平成21年からは院長として病院のかじ取りを務めさせていただき、職員の皆さんとともに、優れた成果を示すことができました。これまで一緒に働いた皆さんに心より感謝申し上げますとともに、名実ともにリーディングホスピタルとなるように願っています。

退任後は、広島感染症・疾病管理センター長として、感染症パンデミックなどに対応することになりますので、どこかでお会いすることがあると思います。宜しくお願いします。



前院長
桑原 正雄

県立広島病院からのお知らせ

脳卒中もみじネットの会

開催日 平成27年 4月16日(木)
時間 19:00~20:30
場所 中央棟2階 講堂
テーマ 脳卒中リハビリテーションの現状と課題
講師 脳神経外科 部長/近藤 浩
一ノ瀬病院 リハビリテーション科/元木 秀之
土谷居宅介護支援事業所 広南 副所長/増本 孝宣 ほか
対象 医療関係者等
共催 広島市南区医師会・県立広島病院
地域連携センター
問合せ先 TEL:082-256-3562 (担当:河内山)

4月のがんサロン

開催日 平成27年 4月22日(水)
時間 14:00~15:00
場所 新棟2階 ラウンジ
内容 交流会
乳腺外科の医師も参加します。診察室では聞けないことでもお気軽にお話しただけです。
対象 悪性腫瘍(がん)で通院 または 入院されている患者さん 及び そのご家族
問合せ先 地域連携センター
TEL:082-256-3562
(担当:佐々木)

県病院を利用される方へ
(外来・見舞い)

イオン宇品店から無料バスが利用できます

4月1日から

当院駐車場の混雑緩和のため、イオン宇品店様のご協力により、イオン宇品店の駐車場が利用できるようになりました。イオン宇品店から県病院まで無料送迎バスをご利用できます。

◎平日のみ運行(土・日・祝日、12/29~1/3は運休)
◎運行時間:午前8時~午後4時
◎運行区間:県病院→イオン宇品店(1日18往復) 県病院→御幸橋(1日8往復)

問合せ先 管財課 TEL082-254-1818(内線 4214)

KBネット

現在の参加医療機関 (3月25日現在)

201

問合せ先 地域連携センター
電話(082)252-6228(直通)

A受付 B受付

外来受診変更のお知らせ

●予約時間に受診する為に

これまででも予約を入れての受診をお願いしておりましたが、患者さんが来院された順番にも配慮していた為、午前中に駐車場が混雑する、採血・採尿の処置室で待たされるなどご迷惑をおかけすることになっていました。

4月から待ち時間を短縮し、予約した時間に診察ができるように、A及びB受付での受付方法を次のとおり変更することとしましたので、皆様には何卒ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

●皆様に協力して頂きたいこと

診察前に採血・採尿がある方は、予約時間に医師の診療を受けられるように、30分から1時間前を目安に、それ以外の方は10分～15分前を目安にご来院下さい。

A受付での番号札は廃止し、配布いたしません。よろしくお願いたします。



4月から受付方法が変わります!!

呼出しの変更

	変更前	変更後
<p>A (内科) B (外科) 受付</p>	受付に並んだ順 (番号札の順)	診察の予約時間順に 受付クラークが 呼出しをします。 
<p>内科外科処置室 採血・採尿受付 (診察前に採血・採尿のある方)</p>	ファイルをカゴに置いた順	診察の予約時間順に モニターに表示し、呼出します。 

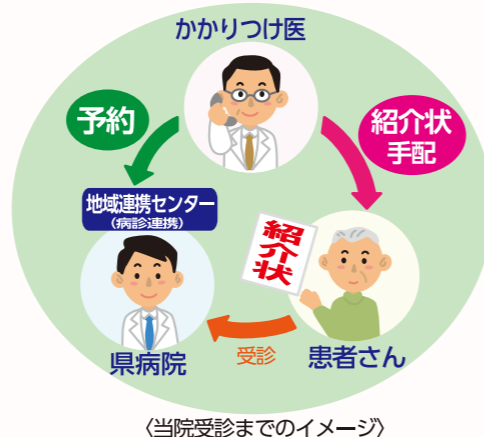
※来院時間について看護師等から別に説明があった場合は、その時間にお越しください。

●初めて受診される方は

初めて受診される際は、かかりつけ医等の医療機関から「地域連携センター」を通じて予約の上、当日は紹介状を持参してご来院ください。

●かかりつけ医の先生へ

紹介患者さんにスムーズに受診していただくため、「地域連携センター(病診連携)」を通じて、予約をおとりいただけますよう、ご協力をお願いいたします。



予約のない方・紹介状のない方へ

受付時間は午前11時までです。診察は予約した患者さんの後になりますので、それまでお待ちいただくことになります。急を要する患者さんには随時対応します。

外科医の独り言 no.43

— 理髪外科医 —

私は子供の頃から散髪が嫌いです。とにかく1時間以上あの散髪台に座って、あるいは寝かされてジーンとしているのが苦手なのです。ある時は漫画を見ながら気を紛らしていましたが、不謹慎なようで理容師さんに申し訳ないような気がしてそれも止めました。

大学時代のある日、散髪代にも事欠いたため、自前のはさみで適当にカットして無残な髪型になり、なけなしのお金を握って散髪屋に飛び込んだことがありました。その散髪屋さんは優しいおじさんで、手際よくザンギリ頭をそろえてくれました。やはりプロに任すべきだと悟ったと同時にその時の髪型を気に入り、以後25年間、私の勤務地がどこに変わろうともその散髪屋に通い続けました。しかし6年前私が県病院に赴任する直前に散髪屋を訪れた時のことです。その前から話を聞いてはいましたが、息子さんが後を継がれ、店の雰囲気も散髪屋から美容室風になり、若いお客さんが多くなっていました。その後も若いお客さんが増える一方で、おじさんの出番が減ったのかあるいは意識的にフェードアウトされたのか、おじさん担当のお客さんも少なくなりました。そのうち私がこのお店に通っているうちは、おじさんは引退できずに働き続けなければならないのかと思い、申し訳ない気持ちになってきたのです。

そうこうしているうちにまた髪が伸び、そろそろ散髪に行かなきゃと思った時、『理髪外科医』という言葉思い出したのです。中世のヨーロッパでは外科医の起源は理髪師だと言われています。当時医師と言えば内科医の事で、外科医(理髪師)は医師ではありませんでした。その頃、刃物を使い慣れ、手仕事得意であった理髪師が戦争で傷ついた戦士の治

療に当たり、病室に集まる悪い血を抜く瀉血(しゃけつ)治療も理髪師が行っていました。諸説ありますが、散髪屋さんの店先でクルクル回っている赤、白、青の“サインポール”は動脈(赤)と静脈(青)、そして包帯(白)を表しているとも言われています。そんなことからふと、外科医である私は「理髪もできるはず」と勘違いしてしまったのです。それ以来風呂場でせっせと剃刀、髭剃りを使って髪を切りました。一度に切るとさすがに凸凹が目立つので週に1回、風呂場で少しずつ髪を切ってきました。さすが外科医だと自画自賛しながら理髪外科を実践しました。1時間以上散髪台に縛られる苦痛からも解放されました。しかし妻には不評でした。髪型ではありません、風呂場の流しが私の髪で詰まるからです。

しかし外科医が理髪外科医を兼ねて1年経った頃、外来で私の髪のアマリの異常さに警告を飛ばしてくださった患者さんがいました。以前から言おう言おうと思っていたそうです。その患者さんは本当の理髪師(理容師)さんです。確かにプロの目から見ればなにその髪?って感じだったのでしょ。そして「私が直してあげますから」と暖かいお言葉をかけて頂きました。それ以来、大竹市にあるサインポールをめざしてせっせと通っていますが、じっとしておくのが苦手な性分は相変わらずで、特別に顔剃りと最後の整髪剤を使ったセットは、免除してもらっています。

ちなみにその患者さんにもせっせと月に1回、大竹から広島まで通って頂いております。



副院長
(消化器・乳腺・移植外科主任部長)
板本敏行(いたもととしゆき)

県病の星 新生児集中ケア 認定看護師

みなさんは『NICU(新生児集中治療室)』をご存知ですか? 小さく早く生まれたり、ちょっと呼吸がしんどかったり、様々な理由で治療を必要とする赤ちゃんたちをお預かりする病棟です。保育器に入った赤ちゃんを、イメージしてみてください。

赤ちゃんたちはお母さんのお腹から外に出て、自分の力で生きようと一生懸命頑張っています。私たちはそのお手伝いをしており、特に生まれてから1～2週間くらいが一番状態が変化する時期を専門としています。日々変化する赤ちゃんの状態をできるだけ早く正確にキャッチして、しんどくならないように調整したり、お母さんのお腹にいるときと同じような、心地よい環境を整えることを大切にしています。赤ちゃんたちの頑張りがあり、お母さんお父さんに抱っこされてNICUを卒業=退院していくことが、私たちの一番の喜びです。これからも赤ちゃんたちのパワーに負けないう、頑張っていきます。



左から宮本、中山、馬場看護師